

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4310710613
法人名	医療法人社団 福寿会
事業所名	グループホーム くすのき
訪問調査日	平成 20 年 12 月 18 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 19 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	4310710613
法人名	医療法人社団 福寿会
事業所名	グループホーム くすのき
所在地 (電話番号)	熊本県天草市楠浦町288番地9 (電話)0969-27-5402

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13 -12 -205		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】(20 年 11 月 10 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年5月14日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8 人	常勤 7人、 非常勤 1人、 常勤換算 7. 6人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	耐火木造作り	
	1階建ての 階	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30000円	その他の経費(月額)	理美容・おむつ代実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	180円	昼食 300円
	夕食	300円	おやつ 円
	または1日あたり		

(4)利用者の概要(11 月 10 日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低 74 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	天草セントラル病院 榎本歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物前方に海が広がり、隣接するゲートボール場は入居者の日々の散歩コースとして又、有事の際の避難所として活用されている。関係者の来訪も多くリビングは終日笑い声に包まれ介護者と入居者の距離の近さが窺え誰もが気軽に訪れやすいホームである。地域交流の重要性を十分認識し、地区の夏祭りや清掃活動に積極的に参加している。又、幼稚園児や小学生の訪問、定期的な養護学校の生徒との交流は入居者の楽しみとなっている。医療面でも地元で信頼の厚い母体医院の支援を受け、24時間医療連携をとり定期的な診察や時間外の往診、他病院の同行受診や必要に応じた訪問歯科を実施するなど入居者の健康面をバックアップしている。地元で根ざした地域福祉の先駆者として更なる支援の充実が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を受け職員で早急に話し合い、これまで以上に居室の清潔保持とオムツに頼らない排泄支援に取り組んだ。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	外部評価に対する意義について全職員で再確認し、自己評価は各々考えを持ち寄り最終的に管理者がまとめあげたものである。外部評価については、運営推進会議の中でも説明、結果報告がなされている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	定期的に行なわれる会議では、ホームの現状報告と共に地域の情報収集につとめている。メンバーの中には会議以外にもホームを訪れ入居者との関係構築に努められるなど日常的な関わりに発展している事が評価できる。今後は参加されなかった家族への議事録送付による周知徹底が望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	意見箱の設置や家族会・面会の際に意見や要望を運営に反映させるようにしている。夜間面会時照明が暗かったという意見に対して早急に対応し、訪れ易いホームについて再確認する機会となった。家族の要望や意見に対しての改善点の報告を行う事で家族からの更なる信頼に繋げていただきたい。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	近隣散歩の途中花をいただいたり、隣接地のゲートボール場は人々との交流の場となっている。ホームも地域交流の重要性を十分認識し、地区の活動にも積極的に参加し、幼稚園や小学校・養護学校との交流は入居者の楽しみとなっている。今後は地域の方々の個別相談にも対応していきたい意向であり今後の取組みに期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で作りあげた理念には、家族同様に安心してゆっくりと暮らして欲しいという思いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員がいつでも目にするように理念を玄関に掲げ指針としている。又、家族に対しても入居前や家族会の席で理念について話をし共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接するゲートボール場は近隣の人々との交流に不可欠な場所であり散歩を兼ねたふれあいの場となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員が各々の考えを持ち寄り管理者がまとめ上げたものである。居室の臭いが気になるなどの前回の外部評価の結果を受け全職員で各居室の清潔保持に努めると共に、日中の入居者のオムツ使用からパンツ移行にも力を入れている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、区長、地域包括、家族会代表の参加を得て二ヶ月に一度開催されている。ホームの現状報告と共に、地域の情報収集に努めている。メンバーの中には会議以外でもホームを訪れ入居者との関係構築に努められるなど日常的な関わりが窺える。会議後の家族への報告までは至っていない。	○	家族の参加が偏ってしまう為、日時の変更の検討と参加ができなかった家族へ議事録の送付をする事で周知徹底を図っていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市への書類提出時や、電話にて疑問点や質問事項を相談している。又、認定調査時に必要があれば同席し対応している。現在のところ市より運営推進会議への参加は得られていない。	○	今後は市担当者の運営推進会議への参加の打診をお願いし、これまで以上の会議の進展に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	I～3ヶ月に一度発行されるホーム便りは家族の楽しみとなり来訪のきっかけともなっている。面会時には必ず入居者の近況報告を行い預かり金についても収支の報告後サインにて確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり家族会の席で意見や要望を聞くなど家族からの思いに応えている。夜間訪問した際リビングの照明がなかったとの要望に早急に対応している。	○	全家族へ対処後の報告も併せて行うことで更に家族からの信頼に繋げていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は殆どなく、異動についてもホーム便りや口頭で報告を行い、入居者にダメージが生じないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングや外部研修にも可能な限り参加し、報告会や報告書を自由に閲覧できるようにする事で共有している。現在レクリエーションインストラクター講習に男性職員が参加中である。ホーム内でも業務に担当や係りを決め責任と自信に繋げている。今後は医療面での研修が課題としている。	○	以前行われていた母体医師を交えての医療面での勉強会が現況では中々難しいようであるが、機会を作り是非復活され連携を深めていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会の定例会に、管理者やケアマネジャーが参加し勉強会や交流会には、他の職員も参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時に職員が自宅を訪問したり、ホームを見学してもらう事で馴染みの関係を作り、入居者が入りやすい雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人や家族からの聞き取りで“入居者一人ひとりをよく知る”という事を心がけている。料理を入居者に教わったり、職員の悩みを真剣に聞いてくれる入居者の存在など、一方通行にならない関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から入居者の意向を引き出している。意志表示が困難な場合には、家族から本人の思いを代弁してもらい個々の思いを受け止めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議には家族も同席し要望や意見を反映させている。担当職員の細かい観察や情報により個々の状態に応じたプラン作りが行われ他の職員も共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し本人、家族、担当者から意向や状況を把握しプランの見直しが行われている。又、入居者の状態変化によってその都度見直しを行い、支援にズレが生じない様に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物・移動理美容車の支援や併設デイケアとの合同イベント参加、入居者や職員に機能訓練士によるアドバイスや指導は確実に成果が現れている。昨年より開始した共用型デイサービスでの在宅認知症の利用者へのサービスも浸透してきている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度かかりつけ医による診察や、必要に応じ訪問歯科診療を行っている。他の医療機関受診の際も同行し、家族が同行できない場合の結果報告の徹底や、入居者とも顔なじみの母体医院医師の訪問は家族への安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については入居時に説明を行い同意を得ている。家族にとっても職員にとっても後に悔いが残らないよう容態が変化する時は医師を含め話し合いを行い、希望に応じた体制を作り、対応していきたいとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関するマニュアルの設置、勉強会を実施し、個人情報に関しては家族への説明・同意を得ている。排泄は各居室で対応する。現在、事務所を相談ルームとする事が多く、プライバシーの点から今後の課題としている。	○	入居者・家族・地域の方々の相談に個別対応できるスペースを確保したい意向であり、プライバシーに配慮した今後の取り組みが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるものの“その人のその日その時を大切に”をモットーにしたケアの実践に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理番組や本を参考にしながら、入居者の好み(刺身・芋ずるやつわ等の郷土食材)を取り入れた献立である。食事の準備や片付けを入居者と共に行ない、職員も同じ物を同じ時間に食べる事で楽しい会話や反応も感じ取れる。時には出前メニューも取り入れ入居者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じ毎日入浴支援できるようにしている。入浴の可否は個別に記録し、入浴できない場合も清拭へ変更したり、拒否の方へもタイミングや職員の絶妙な声かけにより最低週二回は入ってもらえるよう支援している。又、菖蒲・柚子・バラ・入浴剤の使用により季節を楽しめる入浴支援も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの経験を活かし入居者ができる事を支援している。訪問日も炬燵でのんびり新聞や職員と昔話の本を上げたり、イベント等で度々披露する“バナナのたたき売り”を熱演する入居者の姿など、張り合いや喜びのある日常を感じとれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩や隣接地でのゲートボール見学は日常的に行われている。買い物や花見、外食を兼ねてのドライブ等できるだけ希望に添った外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事の弊害は全職員理解し、夜間九時までは施錠していない。帰宅願望や不穏な入居者へも寄り添いや見守りにて行動を束縛しない支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回通報・消火を含めた避難訓練を実施している。又、地域の消火訓練にも参加し災害対策の知識を深める努力を行っている。ホームでの訓練に地域の方の参加までは至っていない。	○	今後も地元消防団との連携を深めながら、近隣に訓練の参加を呼びかけ有事の際に備えていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保は三食事やおやつ、夏場はいつでも飲めるようリビングに用意している。食事摂取は全員、水分は必要に応じ記録に残し健康管理を行っている。個々の嚥下状態によりキザミ食の方もできるだけ形態を壊さずに提供している。体重が増加しがちな入居者へも十分配慮していきたいとしている。	○	これまで同様定期的な体重測定と、楽しい食事を大切にしながらも、カロリー過多に配慮した食事支援を期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関のプランターやリビングに飾られた季節の花、共同作品、行事や外出先での思い出写真掲示など温かな雰囲気である。採光と見晴らしのよいリビング、寛ぎのデッキではお茶を楽しんだり、季節によって表情の異なる海を間近に感じとれる。共同、各居室とトイレの数が多い為、異臭には最善の注意を払っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレ・ベットが設置され家族の協力のもと、タンス・帽子・カレンダー等使い慣れた品や好みの品が持ち込まれている。入居者の状態や様子を見ながら家具の位置を変えたり、家族と相談しながら入居者が心地よく過ごせる居室作りを支援している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム くすのき
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	熊本県天草市楠浦町288番地9号
記入者名 （管理者）	松崎夏枝
記入日	平成 20 年 12 月 8 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	長年住み慣れた地域の中で、自宅と同じ環境にたく「安らぎを与える私の我が家」という理念をつくりあげている。以前の理念を見直し、誰もがわかりやすい理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げ職員はいつでも見れるようにしている。そして理念に近づけるように、地域の行事に参加したり、一緒に靴や下着を買いに行ったり、テレビを見ながらおしゃべりしたり、安らぎを感じてもらえるように日々取り組んでいる	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	訪問者には掲示を見せながら説明し、理解してもらえようになっている。また、ご家族にも年度末に事業計画・実施報告行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くにゲートボール場や集会場があり、近所の方の往来がよくあるので、積極的にこちらから声をかけたり、散歩がてらゲートボール場に行き交流を図っている。玄関のドアは開放しており、いつでも気軽に入れるようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の夏祭り・消防訓練・清掃活動に参加している。夏祭りでは利用者が歌う『炭坑節』に合わせて職員が踊り場を盛り上げた。また、園児・小学生の慰問や、定期的に養護学校の児童との交流会も実施している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室を開催し、認知症への理解を広める取り組みをしている。また、地域の方より認知症についての相談を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義をミーティングで伝え、ミーティングの中で全員で自己評価をおこない、評価結果をもとに話し合い改善に向け取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ほとんどのメンバーが参加され、貴重な意見も頂きサービス向上につなげている。会議以外にも訪問して下さって、入居者の方と会話をもったりしていただいている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点や問題が生じたときに、電話や訪問して相談している	○	中央包括の方は運営推進会議のメンバーとして参加されているが、市町村担当者も時々会議に参加していただけるよう声を掛けていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会には積極的に参加し、他のスタッフに伝え学んだ事を共有している。相談時には必要時、情報提供している	○	内容が難しいので、勉強会を増やして全員が理解できるように取り組んでいきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し職員の意識を高めている。また、入浴時等に全身状態の観察を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		入居者の高齢化と重度化(最期をどこで看取るかという場面にも直面することもできている)。今後とも利用者・家族・主治医・施設と何度も話し合いながら利用者、家族が満足できるよう支援していきたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	家族と共に同じ考えで介護していく方針であり、困ったときにはすぐに家族と相談しながら一番いい方法を見つけていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	家族交流会の機会を増やした事で、家族同士の意見の交換もしあえているので、職員も含めもっと交流を深め苦情を出しやすい雰囲気にしていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○	新人・経験者にかかわらず意見をとり上げ、活気のある職場にしていきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている		異動や離職がなるべく避けられるように、問題点は早期に解決するようにしているが、代わる場合はダメージを防ぐために入居者と異動(離職)するスタッフの関係に応じて個々に対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外にかかわらず、研修には参加するようにしており、研修終了後には、報告会を行い、報告書の閲覧も自由にできるようにしている。	○	スタッフ全員に連絡取次のための研修の機会を設けたいとの考えあり。長期の研修にもみんなの協力を得ながら参加させている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会議があり、3ヶ月に1回定期的に報告会等の会議が主に管理者や計画作成担当者が参加している。また研修会・勉強会・交流会の開催があり他のスタッフも参加している	○	今年から始めて天草市のGH事業間の忘年会の開催されることにより、より一層の交流が図れるのではないかと考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃よりコミュニケーションを図りストレスの軽減に取り組んでいる	○	年に数回職場を離れた交流を設け、リラックスした雰囲気の中でストレス発散できるようにしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者が頻繁にGHに来所し、スタッフの業務実績を確認したり報告を受けたりしており、向上心を持って働ける環境を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの相談は少なく、家族からの相談、それも現在地施設や病院に入院している方がほとんどであり、在宅で急を要する場合には、他施設を紹介したり、一人で抱え込まないように話し、相談にのっている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者に本人宅を何度か訪問し顔見知りになると共に、現在の生活パターンや情報収集し本人の思い、考えを知り、なるべく不安を解消してスムーズに利用につなげるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず話をよく聴き、必要に応じた支援かを見極め、必要ならば他のサービス機関を紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居(契約)前に、職員が本人を訪れ顔見知りの関係を築き、GHへも見学に来ていただき、少しでもスムーズにサービスを利用できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できるだけ本人のすべてを理解するために、本人や家族から話をよく聞き、これまでの生活歴を知るように努力している。その上で、表情・行動から本人の気持ちを察し介護者としてではなく家族として接するようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には必ず近況報告したり、広報誌の発行、電話によりできるだけ施設での本人の様子を理解していただく。困っている点は、一緒に考えてもらい、家族の意向も大事にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日ごろの様子や感謝の言葉などを伝え、本人と家族のより良い関係が築いていけるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りに参加したり、散歩時、また隣接しているデイケアとの人達との交流も継続している。	○	本人の生活歴を把握し、職員全体で馴染みの人との交流を意識して取り組んでいきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同スペースでの席を固定せず利用者の状態によって移動することによって、決まった相手とだけでなくたくさんの入居者と交流できるように支援している。また、利用者同士の関係を把握して、トラブルにならないように職員が会話に加わる。また、		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関へ入院した方でも、職員が交代で面会に行ったり、状況に応じて洗濯等の支援を行ったりしている。	○	契約終了後も、家族から相談できるように声かけを行いたい。気軽に立ち寄りやすい関係を作っていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の希望、意向を聴きだすようにしている。困難な場合は家族の意向を参考にしたりカンファレンス等で職員が意見を出し合い、本人の意向に沿う形を検討している	○	はじめての入居の方には必ず計画作成担当者が司会をし、カンファレンスにて情報を共有し、スムーズに利用できるようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前に必ず計画作成担当者が本人・家族と面談情報収集し、入居後も本人・家族・担当ケアマネにより情報の収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できるだけ在宅時と変わらないリズムを心がけている。本人の日常を観察し心身ともに把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは、担当者会議にて家族も含めスタッフも出席しているが、あまり意見が出にくい面もあり、日々の問題点はカンファレンスで対策を立てるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人や家族の意見も変わるので、状態に応じて一部変更したり、全部立て直したりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の本人の不便そうな様子から家具の位置を変えたり等の対策を立て、実際やってみての本人の反応や言葉を個人記録に残し、その情報を共有することによって、職員全体でケアの実践に役立っている。	○	「気づきノート」を作り、新たな発見や事故へのリスクが早めに回避できるようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型のデイサービスで、在宅での認知症の利用者にサービスの提供の場を設けている。	○	当デイ利用者は一人暮らしの認知症の方で、本人在宅生活を希望される方がほとんどであるが、当事業所だけでは支援に限界もあり近隣や地域の方の協力は不可欠であり地域の方への理解も広めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や地域でボランティア活動をしている会長さんに運営推進委員になっていただき、その立場を生かしたアドバイスを受けている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	歩行困難等の理由により地域の理美容室を使えなくなった利用者には、移動美容室サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加により、施設の活動をよく理解していただきアドバイスも受けることができ、良い協力関係ができています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常はかかりつけ医に2週間に1回の診察を受けている。また、他の病院や他科診療時必要時は家族によく説明し、同行するようにしている。家族が同行できない場合は、診察結果を必ず報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の進行において、日常生活に支障をきたすばあいは、専門医の診察を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤で1名配置されており、勤務外でも24時間連絡できる体制を取っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時より家族の意向を踏まえ、医療機関とも相談し、早期退院できるよう努めている。面会には職員が交代でほぼ毎日行っている。退院後はまた同じ居室に戻ってこれるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算をとっており、入居時(契約時)に説明し同意を得ている。また、本人の状況変化に応じ、家族・施設・意思と話し合いを何度も持ち、意見の統一を図っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族・医師・施設スタッフと何度も話し合いを持つようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時は、職員が交代で面会に行き環境の変化によるダメージを少なくするように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関するプライバシーに対しての勉強会やマニュアルも作成はしている。入居時に必ず家族へも説明し、許可を得ている。	昔からの知り合いの方が地域に多く、個人のことを尋ねられることも多いが、話しても問題ない部分だけを答えるようにしている
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事の献立や行事、活動等の嗜好を聴いているが、「他の人と同じで・・・」と言われる事が多いので、さまざまな種類を提供し、そこから選んでもらったり、普段の何気ない会話の中から探るよう努めている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、体操など「今日はやりたくない」という人がいたらその人の気持ちを尊重している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	移動美容室を利用して、本人の希望によりカット・染め・パーマなどができるようにしている。また、出かけるときはよそ行きの服に着替えたりお化粧をしたりする利用者の支援もしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の嗜好も取り入れながら立てている。準備や片付けは職員が言葉かけを行いながら、野菜の皮むき・魚をさばいたり・茶碗拭き・台拭き等できるところは手伝ってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の好き嫌いの把握をして、別メニューで対応したりすることもある。現在喫煙されている方はいないが、行事等には少量であるが提供している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の活用により、個々の排泄パターンはわかっているもので、尿意の訴えのない方でも、時間をみて誘導している。	○	排泄チェック表により昼間だけでも紙パンツから布製の失禁パンツに変更できた方が数名おられる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	「お風呂に入りたい(入りたくない)」という気持ちを大切にしながら、サービス実行表を見て前日入浴できていない方を優先的にしている。病状的に入浴できない方は清拭にて対応している。	○	できるだけ入浴を楽しんでいただくために、季節ごとに菖蒲湯やゆず湯等、又温泉の入浴剤使用し変化もさせたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	現在ほとんどの利用者の生活リズムは整っており、夜間も良眠されている。落ち着かれない等本人の状態によって職員が添い寝することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる方には、魚をさばいてもらったり調理したり職員と一緒にしている。また、掃除、草むしり、洗濯物干し(たたみ)をしてもらったり、自発的な意欲を持ってもらうよう努めている。	○	本人の「できること」を日々の会話や行動の中からどんどん見つけていきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、少額を持たれている。	○	買い物時はいつも職員が支払いをしているので、利用者が自分で支払う機会を作っていきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	選挙の投票や、地域の祭り、散歩、本人の家に行ったり、ドライブ、デッキに出たり等利用者一人ひとりの希望に添うようにしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話の中から個人の行ってみたいところを見つけ出かけている。	○	可能なかぎり家族へ参加の呼びかけをして一緒に出かけたいと思っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に電話をかけている。また、年賀状や手紙などを家族宛に書く機会を設けている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間を気にせずいつでも面会できるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、全体で取り組んでいる	○	事故へのリスクが高くなるにつれ拘束しないという認識はより強く必要であり、GH内だけでなく施設外への研修も継続的に行い、全員で拘束をしないケアを持続したい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけていない。また、外に出かけようとされる利用者に対しては、一緒に散歩したりして必ず付き添うようにしている。また利用者には自由な空間で自由に過ごしてほしいと思い、さりげなく見守りをしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中殆どの利用者がホールで過ごす時間が多く、把握している居室にて過ごされる場合でも時間ごとに様子を見に行くようにしている。また、転倒等のリスクが高い方には本人の了承を得て寝具に鈴をつけたりして動かれる前に対応できるようにしている。	○	夜間の転倒防止のため、ベッドより降りられる前に対応しようとセンサー利用の離床マットを試作しているところである
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じ、危険性を認識し、物品も普通においていいか、届かないところにおくか変えている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハットに必ず記録するようにしている。そして、他の職員と話し合いその対策を立て、実施するようにしている。家族への報告も行い、一緒に考えてもらっている。	○	報告書を書くだけでなく、原因分析シートにより深く原因を追究し対策を立てるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応はマニュアル化し、電話の横に貼り付け、すぐに見られるようにしている。	○	消防署にて行われる救急の研修にもスタッフ支援で参加させたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練・通報訓練・消火訓練を行っている。	○	地域の消防団との日々の連携も取り合い、訓練にも一緒に参加してもらう予定である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族とは常に情報交換を行っており、リスクについての説明も行っている。また、職員だけで考えるのではなく、家族にも一緒に対応策を考えてもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行っており、常勤で看護師が一人配置されており、些細なことでも報告し、医療につなげている。24時間連絡できる体制をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	”お薬手帳”を管理室で保管し利用者がどんな薬を服用しているのかいつでも確認できるようにしている。また、薬の本でいつでも自分で調べられるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方が多いので、食事や水分補給に気をつけている。頑固な便秘の方にはカンファレンスで対策を立てたり、看護師のもと下剤を服用している。	○	給食委員中心として、食事の中に寒天をまぜる等便秘予防の為食事の工夫をしている。以前は浣腸まで必要であったがここ数カ月は不要となっている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は口腔ケアを行っている。できない時はうがい、それでもできない時は最後に水を飲んでもらっている。誤嚥の恐れのある方は食残が口腔内に残っていないかを確認するようにしている。	○	今年より訪問歯科により、1回／週定期的に口腔ケアをしていただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック表にて、食事量の把握をするようにしている。また、個々に合わせて量や形態(キザミ、ミキサー食等)も変えている。食欲のない場合は牛乳やヨーグルトなど本人が食べたいものを提供し工夫をしている。栄養士にも適宜見てもらったり相談している。	○	食事摂取量が低下した方にも、諦めず24時間食べたい時に食べれる物をとの願いから一人の方に1時間以上も根気よく介助している。その結果摂取量アップし、元気になられており、この経験をもとに継続していきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員を中心に勉強会を開いたり、マニュアルを作成し、常に関覧できるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具などを消毒したり、毎日食材の買い物に行き、なるべく早く使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口がわかりづらいので、案内板を設置している。玄関には花や交流のある養護学校児童からのプレゼントを飾り、親しみやすい雰囲気作りを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日中ほとんど過ごされるホールには花を置いたり、壁に季節感を感じさせるような飾り付けをしている。また、行事の写真も飾り利用者は自分の写っている姿を見て楽しんでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの横に畳があり、カーテンで仕切られ、疲れたとき横になってもらったり、冬は掘りごたつの中で仲の良い利用者同士が数人で会話されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、できるだけ家から馴染みの家具等を持ち込んでもらうよう話をしている、遺影を持ってこられる方もいる。また、家族からのプレゼントやお孫さんの写真・思い出の写真などを飾っている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の起床前や掃除時など、気がけて換気を行っている。また、温度計を設置したり、利用者に尋ねたり、居室に関しては、個人により体感温度が違うので個人に合わせた温度設定をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの設計で、廊下には手すりがついており、車椅子使用者、歩行可能な方も使用されている。居室内は通常のトイレ以外にも利用者の状態に応じて、ポータブルトイレを置いてあり夜間利用されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	共用スペースのトイレには”トイレ”と表示したり、居室の入り口には、本人がわかるように写真を貼っている。また、居室トイレはセンサーで電気がつくようになっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには季節の花を植え、デッキには椅子を置いて景色を眺めたり、食事をしたりしている。近所の方も良く通られるので会話したり、気軽に立ち寄っていただけるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この乱は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください)

母体医院の医師・看護師との連携を密にし、利用者・家族の方にも安心したケアが提供できているのではないかと思います。午前中はリハビリ体操やレクレーションを取り入れ、気候の良い日はドライブや買い物をしたりなど、入居者と共に楽しみを見つけ有意義な時間を過ごしている。地元の入居者が多く、地域の方々や隣接するデイケアセンターの利用者とも交流が多く図れている。他にも養護学校の児童や、ボランティアとの交流を多く取り入れることにより、入居者の変化のある生活を支援できていると思います。